

2022 年度の活動報告

高齢者支援事業: 高齢者との交流を促進し、課題解決策を導き出す支援事業

高齢者支援事業（実践&山野）



実践女子大学短期大学部教授 三田 薫
山野美容芸術短期大学准教授 及川 麻衣子

高齢者支援事業のご紹介

経緯 私情協の短期大学教育改革 ICT 会議で設立した「地域貢献支援事業コンソーシアム」を通して、学生が主体となって進める社会実践の訓練として、実践女子大学短期大学部と山野美容芸術短期大学が協働で地域課題の「高齢者支援事業」の試行を目指すことになりました。

しかし、学生側に高齢者の方たちとの対話経験がないことから、対話の仕方などを学ぶために、他校の学生、社会人及び高齢者グループの方々などと、ネット上で交流の経験を積み重ねることになり、2年前から「異世代交流支援事業」をはじめています。

概要 2022 年度「異世代交流支援事業」は、前期に動画編集方法を 5 回にわたって専門家から学びました。そこで習得した技能を生かして、後期に高齢者をキャンパスに招いて、対面で交流し、あらかじめ学生が考えた内容でインタビューを行い、それを録画・編集し、作品を制作しました。動画作品は YouTube に公開した後、再び高齢者と zoom で交流する機会を設け、高齢者のフィードバックをいただきました。

成果 ふだん接点のない高齢者と対面および ICT を通してつながることができ、以下のような成果が見られました。参加学生は、企画力・協調性・時間管理能力・発信力・IT スキル・コミュニケーション力などの社会人基礎力の向上につながりました。2022 年度は「baba lab」や「地域デビュー楽しみ隊」という ICT に長け、活発な活動を行っている高齢者団体とのつながりを強めることができました。学生・高齢者双方が刺激しあう様子がみられました。

ノウハウ 2022 年度は、前年度以上に授業がびっしり詰まって昼休みの活用が困難であることから、昼休みの活動を断念し、前期の授業時間帯に5回にわたって実践女子大学および実践女子大学短期大学の学生が対面で専門家からインタビューと動画編集の方法を学びました。その講座の様子を撮影し、編集して YouTube の限定公開を行い、山野美容芸術短期大学の学生がオンデマンドで動画編集の方法を学んでいます。どちらの短期大学の学生も各自が制作した友人紹介の動画をクラウド上に保存して、専門家からコメントを受けるという機会を設けました。さらに 10 月には、土曜日に高齢者 6 名を実践女子大学渋谷キャンパスに招き、実践と山野の学生が高齢者を迎えて、対面でインタビューと撮影を行いました。それを基に制作したインタビュー動画を 11 月に YouTube 公開してあらかじめ視聴してもらい、zoom で高齢者にコメントをいただく機会を設けました。このように対面の他にオンデマンド、オンライン、クラウドを組み合わせることで、活動を実施することができました。

展望 2023 年度は、学生がそれぞれの専門分野を生かして高齢者のニーズ調査を本格的に行えるよう、これまでの活動をさらに進化させていく予定です。

異世代交流支援事業の報告

三田 薫（実践女子大学短期大学部）

及川麻衣子（山野美容芸術短期大学）

2022年度活動報告

実践女子大学短期大学部と山野美容芸術短期大学が連携して、前期に動画編集方法を5回にわたって専門家から学んだ。そこで習得した技能を生かして、後期に高齢者をキャンパスに招いて、対面で高齢者と交流し、あらかじめ学生が考えた内容でインタビューを行い、それを録画・編集し、インタビュー動画を制作した。完成した動画作品をYouTubeで公開した後、再び高齢者とzoomで交流する機会を設け、高齢者のフィードバックを受けた。

2022年度は、前年度までの活動でつながりのできた「baba lab」や「地域デビュー楽しみ隊」というICTに長け、活発な活動を行っている高齢者団体とのつながりを強めることができた。今年度の参加学生は、動画制作をプロから学ぶ機会を通して、高齢者との交流だけではなく、動画制作の技術、インタビューのコツなども習得することもできた。

課題：時間調整、日程調整が非常に難しかった。短大生が多忙のため、昼休みの時間確保は断念した。実践の学生、山野の学生、高齢者という3者をつなぎ、また動画制作の専門家との調整も必要となるため、何度もスケジューリングし直すことになった。

以下に、詳細を報告する。

(1) 参加人数と活動時間

前期：実践学生6名（教室で対面講座参加）、山野学生15名（自宅でオンデマンド受講）

プロに学ぶインタビュー動画作り講座

【第1回（5月23日）】ペアになって、相手の自己PR映像（素材として3分程度）を撮影・編集

【第2回（5月30日）】インタビュー映像（3分）を作る「あなたにとってのコロナ禍」3人グループで、質問内容を検討

【第3回（6月6日）】撮影素材の文字起こしと、使用部分の検討・構成を修正

【第4回（6月13日）】編集を行い、zoomで個別に講師のプレビューを受ける、テロップやBGMをつけて完成

【第5回（6月20日）】発表、振り返り

【山野学生向け動画づくり講座（7月9日）】山野学生21名

後期：実践学生6名、山野学生15名、高齢者6名

【第1回（10月1日）】

10:00-13:00（動画作りの基礎）

14:00-14:30 インタビュー動画についての専門家レクチャー

14:30-15:00 インタビューの内容をグループで考える

15:00-16:00 高齢者へのインタビューと撮影、交流

第2回までの期間は、インタビュー動画制作と専門家のアドバイス

【第2回（11月21日）】インタビュー映像（3分）について高齢者のフィードバックと交流

(3) 活動方法

動画作りの対面講座受講

動画作りのオンデマンド講座受講

クラウドに保存された学生動画作品について、学生と専門家でzoomミーティング

高齢者との対面交流とインタビュー

学生のインタビュー動画をYouTube公開

学生と高齢者のzoomミーティングと高齢者のフィードバック

(4) 参加学生から寄せられた特徴的な感想(抜粋)

[活動に参加してよかった点・活動を通して学んだこと・活動を通して成長できたこと]

学生の感想

● 活動に参加してよかった点

インタビューという貴重な経験をさせていただいたこと、異世代の方とコミュニケーションをとれたことです。本当に楽しかったです。

この活動に参加していなければ学ぶことが出来なかった、マイクの付け方やカメラの置く位置、編集の仕方などを学ぶことが出来たのが良かったです。また、元々話したことがなかった子とグループが一緒になって話す機会も増えましたし、異世代の方と交流することで世代間での考え方の違いについて理解することができ、コミュニティを広げるきっかけにもなったので良かったです。

自分自身初めて動画の作成から編集までやらせていただいて、クオリティはともかく新しいことに挑戦できたのはいい経験になったと思います。また、普段あまり関わらない高齢者のかたがたと交流できて色々な考え方に触れらることができて自分の学びになりました。

● 活動を通して学んだこと

インタビューをする際に若者言葉のようなものを使いそうになってしまったので、世代の違う方と話す時は、その世代の方でも分かる言葉を意識して使うことが大切だと思いました。また、コミュニケーションの楽しさを改めて学びました。

動画にしたときに気にならないマイクの付け方や、インタビューの時のカメラの配置などを新しく学ぶことが出来ました。また、今までは、まとまりが無くなるから一つの動画で一つの音源しか使ってはいけないと思っていたけれど、質問や雰囲気によって音源を変えるとより良くなるという事をアドバイスしていただけたら、文字を出すタイミングについてアドバイスをいただけたらして、学べることが沢山ありました。

活動を通して、積極的に自分の役割を果たすことができるようになってきたと思います。これを今すべきかもしれないと考え、自分の役割を果たしました。

● 活動を通して成長できたこと

今までは編集すらまともに出来ませんでした。先生に教えていただいたことや、学んだことを活かして自分自身で工夫して動画編集ができるようになりました。また、カメラの置き方についても学ぶことができ、それを別の機会に生かすなど、学んだ事を、実践して活用するという事もできるようになったところが成長した部分であると思います。そして、異世代の方との交流を経て、世代が違って自分もこんなにもコミュニケーションをとることが出来るのだなということを知るきっかけにもなって、もっともっとコミュニティを広げていきたいなと感じました。

高齢者の感想

● 学生の動画を見た感想をお聞かせください。

どの動画もよくまとまっており、音楽の使い方も絶妙で、編集レベルが高いと思いました。さすがデジタルネイティブ世代は違うなと感心致しました。もちろん指導された講師の方のレベルが高かったからこそのと思います。

たいへん興味深く拝見しました。聞かれる側のほかの人たちの話も、実際に私たち同士で話すときにそうした話題になることはなかったりしますから、その点でも興味深かったです。

若い人たちには、私たちにとっては普通の話であったとしても新鮮なのかなということであれば、これも興味深いとおもえます。

取り止めもなく話したような記憶でしたが、とても良く編集されていて感心しました。学生の皆さん「ブラボー！」

私が伝えてたいことを、要領よくまとめていただき感謝です。20分撮影したものを3分でまとめるのは、大変だったと思われます。人生の振り返しも、出来貴重な時間いただきました。これからいろんなことチャレンジして、いろんな価値観の違う人とも、交流続けて下さい。

● 今後学生と話してみたいトピック、身近な課題や地域の課題をお書きください。

人間関係（友だち付き合い、恋愛観・結婚観・家族観）について。社会問題や地球環境問題、政治家の言動などについて感じる事。仕事ってなんのためにするのだろう。こんな仕事をしてみたい。

私たちの世代の中では、問題になるもの、どうすんだよという話になっているものは、親の家問題、墓をどうするか、家の中にあるものをどうするか、とか、若い人にとっては、ほぼほぼ関心の無い話題でしょうが、そんなことに理解が得られたらいいかなと、まだ就職前の人なので、どんな仕事したいとか、仕事をどんな風に思ってますか、とか、若い頃の失敗談とか

これからの日本や世界の事を考えて、将来の自分たちはどうなるのか？どうすればいいのか？どう生きたいのか？など話してみたいです。

● 今回の活動参加を通して、どのようなことにお感じになりましたか。ご自由にお書きください。

今回若い学生さんと話す機会に恵まれ、とても新鮮でしたし、楽しかったです。3人の学生さんと話しましたが、お互いにお年寄りや、若者は・・・という先入観があったかもしれませんね、多様性が声高に言われる昨今、外国人だけでなく、同じ日本人でも異世代交流・異世代相互理解は必要だと思います。是非、このような機会をもっともっと作って欲しいと思います。また、何かありましたらいつでもお手伝いいたします。

(5) まとめ

- 短大生の課外活動時間の確保が難しい中、実践の学生、山野の学生、高齢者という3者をつなぎ、動画制作の専門家との調整も必要となるため、スケジューリングは困難を極めた。
- こうした困難を克服するため、対面の他にオンデマンド、オンライン(zoom)、クラウドに動画保存といった方法を組み合わせ、また動画をYouTube公開してあらかじめ視聴してもらうなどの工夫を行った。
- こうした活動を継続していくには、一つの短期大学で完結するのではなく、複数の教育機関と異世代組織、自治体が連携することで、可能性がより一層広がっていくことを感じた。今後も大学間・異世代者間・自治体や民間団体の連携を強化し、SDGsの「パートナーシップで目標を達成しよう」の実現を目指すことにしている。